

## 末梢神経(2)

## 4-14-2-5 第4腰椎神経根の悪性神経鞘腫術後の筋力低下に対する反跳膝用装具と大腿前面カフバンドの効果

群馬大学医学部附属病院リハビリテーション医学

土肥 清志, 田澤 昌之, 戸谷秀太郎, 中村 俊介, 伊部 洋子,  
黒崎みのり, 和田 直樹

【はじめに】第4腰椎神経根に生じた悪性神経鞘腫:malignant peripheral nerve sheath tumor(左LAMPNST)術後の筋力低下に対して反跳膝用装具(Center Bridge Brace:CBB)と大腿前面部へのカフバンドを併用し,歩容や動的バランスの改善を認めた症例を経験したため報告する。

【症例】51歳,男性,左LAMPNSTに対して腫瘍摘出術が施行された。術後より理学療法を開始し,同神経支配筋の筋力低下,歩行時の反張膝と膝折れを認めた。術後2週で局所再発と皮下転移があり,術後6週から40Gy/16回の重粒子線治療が施行された。理学療法を継続したが,術後9週時点で症状残存していたため,CBBとカフバンドを作成したところ膝折れ不安感の改善を認めた。他覚的評価のためTimed Up and Go test(TUG),3次元動作解析を行ったところ,CBB装着でTUGの時間短縮があり,カフバンドを追加することで更に短縮した。また,3次元動作解析ではCBB着用で患側立脚期膝関節過伸展が改善し,カフバンドの着用でdouble knee actionの明瞭化を認めた。術後10週で在宅復帰に向けたリハビリテーション治療継続目的に他院転院となった。

【考察】装具により動的バランスが改善し,転倒リスク軽減を図ることができた。また患側のdouble knee actionの再現は踵接地時の衝撃を軽減し,反張膝の改善は膝下軟部組織の負担を軽減させるため,患側膝周囲のトラブル予防に繋がった可能性がある。

【結語】反張膝を伴う下肢筋力低下に対してCBBと大腿前面へのカフバンドの着用を行い,動的バランスが改善し,歩行時の自覚的な膝折れ不安感も軽減した。